

## 第1期中期目標の総括

### 概要

当館では「使命」（平成19年度公表）に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定めて、毎年度ごとに実績の評価を行ってきた。この中期目標も、平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績をもとに中期目標の総括を行う。

この5年間の博物館活動の上で画期となったのは、平成23年、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故の発生である。未曾有の被害をもたらしたこの震災は、博物館をとりまく環境も大きく変化させ、従来の活動に加えて新たな視点に立った博物館活動の必要性を迫るものとなった。

まず、博物館利用者数をみると、各年度9万人という目標値を設定してきたが、震災以後の平成23・24年度はその目標を達成することはできなかった。しかし平成25年度は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の放映などにより会津地方への観光客数が増加したことや、特別展「八重の桜」や夏に開催した「恐竜展」の入場者数が好調だったことで、博物館の利用者数は平成18年度以来10万人を突破した。ただし、平成25年度、学習旅行などで県外から来館した学校団体の数は、震災前の平成22年度と比べ約1/3と低迷が続いている。今後は、県やJRが展開する観光キャンペーンなどを契機として、県外からの利用者数を回復させるための広報戦略が必要である。

中期目標のなかで最も重要な課題は、昭和61年の開館後30年近くを迎えるなかで、変化する時代の要請に応え、展示室の改善など博物館のリニューアルをどのように進めていくかということである。厳しい財政状況のなか、現在までのところリニューアル計画を具体化するまでには至っていないが、今後は「震災」を重要なテーマの一つに掲げ、リニューアルの基本方針や基本計画を策定し、具体的なビジョンのもと、リニューアルの必要性を多方面に訴えていく必要がある。

震災以降ますます逼迫している県の財政状況のもと、博物館の活動経費のうち特に企画展や調査研究に関わる予算は、この5年間で半分以下にまで削減された。円滑な博物館活動を進めていくためには、引き続き必要な財源確保に努めるとともに、外部資金の活用など、新たな方策を視野に入れる必要がある。

以下に、「活動の指針」に沿って中期目標の成果と課題をまとめた。

### 1 地域の文化遺産の収集と継承

#### 【成果】

- ・ 収蔵資料の登録は、5年間で目標の1万件が達成された。
- ・ 既存図書 of 整理・データ入力についても、司書が継続的に雇用されたこともあり、目標を上回る1万5千件近い件数が達成された。

#### 【課題】

- ・ 収蔵資料のインターネット上での公開は、準備作業が完了できなかったため、平成25年度末までに公開を開始するという目標は達成されなかった。今後は、平成25年度末に導入した新しい資料管理システムを運用しながら、収蔵資料の公開を開始することが課題となる。

## 2 最新の研究による資料価値の発見

### 【成果】

- ・大学や文化施設などとの共同研究は継続的に実施することができた。

### 【課題】

- ・各機関との共同研究を継続的に実施することができた反面、それらの研究成果が博物館活動に十分反映されてきたとは言い難い。
- ・調査研究費の総額や査読制度のある論文の件数などの点で、文部科学省科学研究費の申請条件を満たすことができなかつたため、同申請ができる研究機関として認定を受けることはできなかつた。今後は、外部助成事業の導入や企業の協賛を得る方策など、新たな財源確保の手段を視野に入れる必要がある。ただし、調査研究費に限らず、外部資金に依存せざるを得なくなりつつある博物館活動の危うさは認識しておくべきである。

## 3 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

### 【成果】

- ・博物館のリニューアルを推進するため、学芸課内に博物館情報収集・展示室改善チームを立ち上げ、リニューアルに向けた議論と情報収集を行ってきた。
- ・常設展については、小規模な展示替えとしてテーマ展、ポイント展などを毎年計画的に開催し、魅力ある常設展の展開に努めてきた。
- ・シリーズでテーマを設けるなど、各分野で工夫を凝らした講座の開催に努めてきた。

### 【課題】

- ・博物館の活動費自体が縮小するなか、予算の裏付けが見込めないこともあり、リニューアル計画の具体化が進んでいない。今後は、リニューアルの基本方針や基本計画などをまとめ、リニューアルの必要性について改めて説明していくことが求められる。
- ・展示解説員を核に、人的コミュニケーションを大切にきた展示解説を基本にしてきたが、展示解説員の人員削減などによって、きめ細かい解説システムを構築するまでには至っていない。今後は、新たな展示解説システムの導入を検討していく必要がある。
- ・学芸員の研究成果や収蔵資料を活用した企画展等の開催を志向してきたが、予算的な裏付けが見込めないなかで、このような開催形態は崩壊しつつある。今後は、関係機関との連携や開催経費確保の新たな手段などを視野に入れて、企画展開催のあり方を検討する必要がある。

## 4 楽しめて出会いのある空間の創出

### 【成果】

- ・エントランスホールや屋外の空間を活用して、各種イベントを継続的に開催してきた。特に東日本大震災以降は、恒例となったミュージアムイベントに加え、各種機関と連携して復興支援を目的とした「復興応援パートナー事業」を開催し、来場者にも概ね満足していただくことができた。

### 【課題】

- ・各種機関との連携を強化するなどして、ミュージアムイベントの内容刷新を図る。
- ・体験型講座や学校団体を対象とした体験学習において、新しいメニューの開発を図る。
- ・企画展開催に合わせて試行されてきた友の会によるミュージアムショップ運営は、人員配置などの問題で困難な状況となった。今後は、博物館のリニューアル計画と連動させながら、ミュージアムショップのあり方を検討していくことが必要となる。

## 5 博物館事業への住民参加

### 【成果】

- ・自然分野と歴史分野において、資料整理を中心としたボランティアの受け入れを行ってきた。

### 【課題】

- ・博物館におけるボランティアの位置づけについて、他館での事例を調査するとともに、館全体で議論を深めていく必要がある。

## 6 博物館情報の発信と公開

### 【成果】

- ・館のホームページを刷新するとともに、常に新しい情報に更新する作業も継続的にを行い、博物館利用者に便宜を図ることができた。
- ・ホームページによる広報以外にも、マスコミをはじめとした外部メディアに積極的に博物館情報を提供し、ある程度の効果を得た。

### 【課題】

- ・従来の広報手段に加え、SNSなど新たな広報媒体を活用した広報活動も視野に入れて、双方向的で、わかりやすい情報提供に努める。

## 7 地域ネットワークの拠点

### 【成果】

- ・市町村の文化施設などと連携し、移動展を継続して実施してきた。
- ・NPOなど地域の文化団体からの要請を受けて多彩な後援事業を実施し、一定の利用者数を得た。

### 【課題】

- ・今後もさまざまな外部機関・団体からの要請で開催を受け入れる事例が出てくると予想されることから、これらの要請に円滑に対応していくための体制づくりが必要となる。

## 8 新しい観光ニーズへの対応

### 【成果】

- ・観光事業団体などと連携し、企画展などの博物館事業の広報強化を図ることができた。

### 【課題】

- ・東日本大震災以降低迷が続いている学校団体による学習旅行件数を回復させるため、さらには、従来未開拓であった地域からの集客数増加を目指すため、県の関係機関や観光事業団体とも連携して、効果的な広報のあり方を検討する。

## 9 使命の明示と事業の点検

### 【成果】

- ・中期目標に掲げた各事業の実績評価と次年度の評価指標を、年報やホームページで公表した。
- ・東日本大震災以降、使命における「活動の指針」に「震災からの復興支援」を掲げ、それに関連した事業を展開してきた。また、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、博物館の使命の内容を一部改訂した。

### 【課題】

- ・利用者ニーズを把握するため、各種アンケート調査を実施し、問題点や批判的な意見については情報の共有に努めてきたが、議論や検討はやや不十分であった。各種アンケートの結果を利用者の声としてホームページ等で公表するとともに、それを

広報活動や各種事業の企画に的確に反映させていくことも検討すべき課題である。

## 10 人材の育成と機能的な組織

### 【成果】

- ・学芸員による学会・研修会等への参加
- ・博物館実習生の受け入れ

### 【課題】

- ・特に研修会での成果を学芸員全体で共有し、それを博物館業務に効果的に反映させていく。

## 11 危機管理

### 【成果】

- ・地震・火災に対する避難・誘導経路や手順を確認するため、定期的に防災・避難訓練を行った。
- ・地震発生時には、展示解説員と学芸員が連携して、観客の安全確保に当たった。
- ・展示室・収蔵庫において温湿度の計測を実施した。

### 【課題】

- ・繁忙期に不測の事態が発生した場合を想定した避難・誘導訓練の実施
- ・展示ケースの老朽化
- ・空調設備の老朽化。

## 12 ふくしまの宝の発掘と保全

### 【成果】

- ・国や県、大学の関係機関などと連携して、旧警戒区域からの資料搬出・保管環境の保全活動を行った。また、救出された資料の一部については、整理分類を進めた。

### 【課題】

- ・旧警戒区域内などに所在する学校や個人が所有している資料の救出・保全
- ・文化庁補助事業「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に採択された東日本大震災被災資料収集事業「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の実施

## 13 ふくしまの宝の公開と活用

### 【成果】

- ・東日本大震災で被災した須賀川市朝日稲荷神社から救出された絵馬を展示資料として、特集展を開催した。『朝日稲荷神社の絵馬』
- ・旧警戒区域内に所在する大熊町民俗伝承館から搬出した考古資料を中心に、常設展のなかで公開した。『ふるさとの考古資料4 大熊町遺跡探訪』

### 【課題】

- ・いわゆる文化財レスキューで救出された資料は多岐にわたる。今後、さまざまな性格をもった資料をどのように公開していくのかを検討する必要がある。
- ・文化財レスキュー活動のようすを紹介する展示コーナーの常設

## 14 ふくしまの再生と活性化

### 【成果】

- ・各種団体と連携し、館の内外において復興支援を目的とした各種事業を行った。また、国の委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用して、さまざまな事業を行った。

### 【課題】

- ・各種文化団体や市民グループとの連携をさらに深めて、被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。